

其風に化せられ、おのづから人間の道をも忘れるにや、されば近頃迄は民家に子をぶつかへすと云事あり、産子は乳に及びぬれば、其父母是を殺す、人是をあやします、父母も又恬然として惻む色なし、其不仁なる事實に夷狄の風なりしが、誠に仁風の遠く及べるにや、殘忍の俗化して今其事なしとぞ。

一花徑樵話大屋士田著

曰、吾奥州の如きは、元より大管方維の封域、各其風土異なり、故に民利も又隨

て別あり、先吾仙台封内は、水田甚だ多くして、米穀を産する事海内に又多からず、然れども東都に運送の便宜く、殊に隣國も又米多からざる地あり、皆他邦に貨するを以て米價貴からず、又敢て至賤に至らず、封内二十一郡廣大なりと雖、南北に阿武隈北上の兩大河あるのみならず、支流又通船すべき者少からざるをもて、海濱の外と雖、諸貨物を運轉するに、牛馬人力を省くもの少からず、民利實に多しと謂つべし、殊に西北の兩地は山多く、東方は海濱中央は平坦にして、水陸の田地多く、百穀鹽鐵魚菜良材悉く備らずと云事なし、皆上下の日用蓄藏の餘、皆他邦に貨するに至て猶餘あり、しかして上野の餘地少からず、故に上下甚だ富すと雖、又甚だ貧しき者なし、此土産多しといへ共、貨するに便あり、又貨するに便ありと雖、餘猶あり、由て物價の利自ら常平に協ふ故なるべし、又南部は地甚だ廣大なること、仙台に過ぐといへ共、山野多く、不毛の地半に過ぐ故に、米價の貴賤甚だ不同にして、上下の貧富も又不同也、津輕封内は沃地多く、土産も又隨て夥しと雖、松前不毛の國に隣て、貨利尤多し、故に上下の富近國に冠たり、又信夫伊達兩郡は養蠶を貴て、農耕を次とす、故に桑田多くして、穀田は少なし、由て豐歲には足るといへ共、凶歲には米穀乏し、又安達安積兩郡二本松候采地は、專農事を先として、米穀も又多く産す、然れ共、信達兩郡に貨するのみならず、封内廣からず、又士人の俸祿采地にあらず、上下米穀の貴きを希ふ故に、常に賤しからず、不登に至る時は羽を生じて飛んとす、又會津封内は、四方險難多きのみならず、隣國皆米